

## 市民公益活動推進と協働に関する 市民活動団体アンケート結果

日頃より、本市の市民公益活動の推進にご協力をいただき、ありがとうございます。

本調査は、市民活動団体のみなさんの活動状況、課題、支援に対するニーズをお聞きし、本市における今後の市民公益活動をより良い方向に進めるために行いました。この結果は「富田林市市民公益活動推進指針」の見直しを行う際の資料とさせて活用させていただきます。

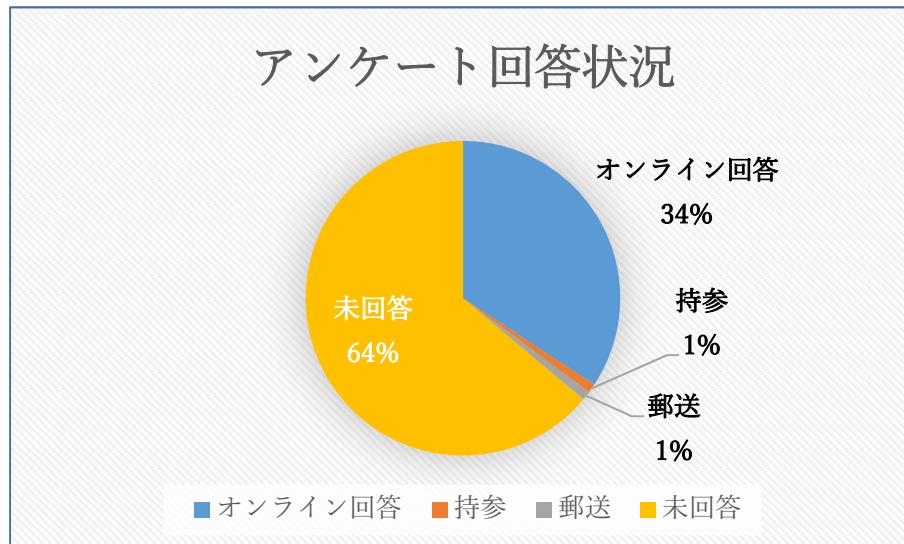
ご回答をいただきました団体及び関係者のみなさま、ご協力ありがとうございました。

富田林市 人権・市民協働課

令和5年2月

## 《 アンケート 単純集計結果 》

### ◆回答状況



送付先：216 団体

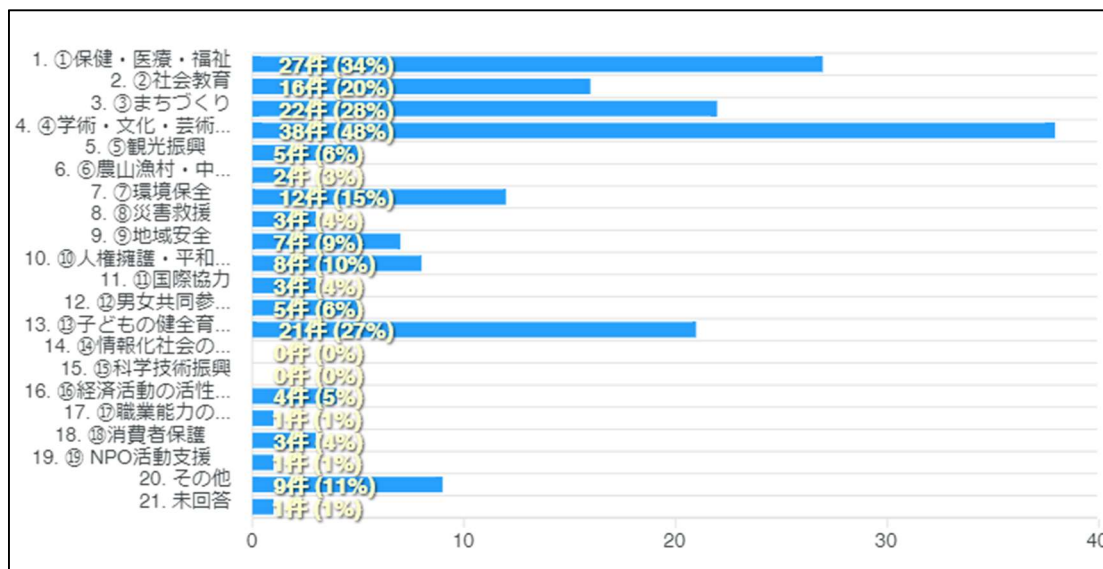
回収率：36%（79 団体）

方 法：オンライン 34%（75 団体） 郵送 1%（2 団体） 窓口 1%（2 団体）

Q1. 団体の概要について教えてください。（略）

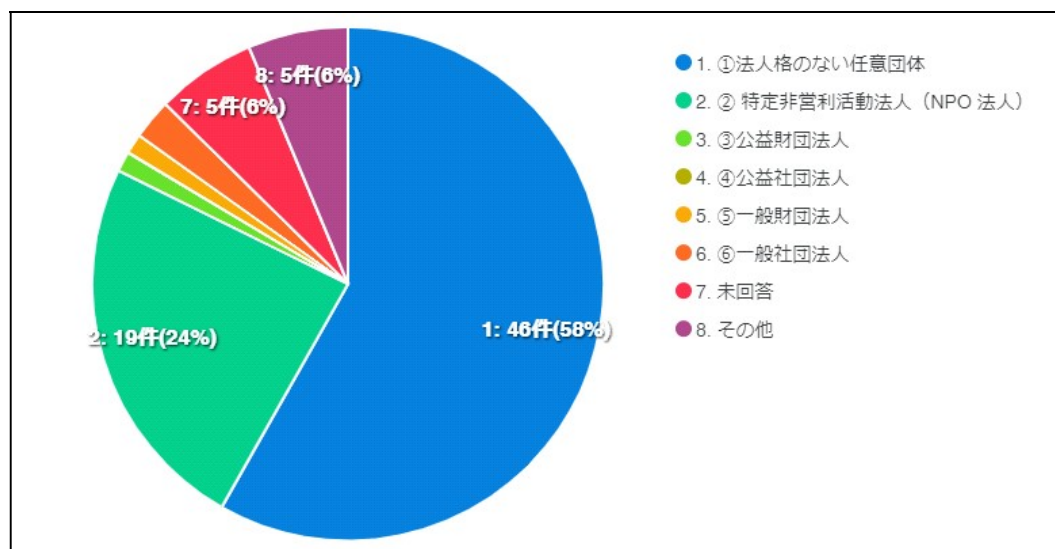
Q2. 団体の活動分野について教えてください。（複数回答可）

- ① 保健・医療・福祉    ② 社会教育    ③ まちづくり    ④ 学術・文化・芸術・スポーツ  
 ⑤ 観光振興    ⑥ 農山漁村・中山間地振興    ⑦ 環境保全    ⑧ 災害救援  
 ⑨ 地域安全    ⑩ 人権擁護・平和推進    ⑪ 国際協力    ⑫ 男女共同参画社会の形成の促進  
 ⑬ 子どもの健全育成    ⑭ 情報化社会の発展    ⑮ 科学技術振興    ⑯ 経済活動の活性化  
 ⑰ 職業能力の開発・雇用機会の拡充支援    ⑱ 消費者保護    ⑲ NPO 活動支援    ⑳ その他



本市で活動されている団体の活動分野は、「学術・文化・芸術・スポーツ」（48%）「保健・医療・福祉」（34%）「まちづくり」（28%）（重複を含む）となっている。

Q3. 団体の法人格の取得の有無について、また、なぜその組織形態を選んだのかを教えてください。



### Q3-2. その組織形態を選んだ理由

#### ○法人化している団体

##### (社会的信用・認知)

- ・組織の信用、公的活動支援が受けられる
- ・15 年ほど前に取得。団体の NPO 法人取得が推進されていたこと、NPO 取得で団体の信頼性を向上させることを目指したことが理由です。
- ・非営利での社会的意義と社会的信頼度
- ・社会的認知

##### (公益性・社会貢献・福祉活動)

- ・公益性、社会貢献といったイメージが高いから。
- ・非営利事業をするのに適しているから
- ・NGO
- ・福祉事業を運営していくのに適切な法人格だと思ったため
- ・地域福祉を非営利活動として行い、契約社会の中で法人格を持って活動したいから
- ・福祉の活動が行いやすかったから

##### (助成金獲得)

- ・助成を受け易くする為
- ・比較的取得しやすく運営にも制約が少ない

#### ○法人化していない団体

##### (小規模・少人数)

- ・法人格を持つほどの組織、運営体制、財力を持たない。
- ・活動規模考慮
- ・少人数の学習会だから
- ・現在人数が5人と少ないから。
- ・参加人数がそもそも少なく、構成メンバーが高齢になってきている。
- ・できる範囲の活動となると任意団体となった
- ・事業報告、会計報告の必要のない団体

##### (知識不足)

- ・組織にするには人も知識も無い
- ・様々な法人の特徴や取得方法を知らないから

##### (活動のしやすさ)

- ・高齢者が自主的に活動を展開しやすくする
- ・組織としては動きやすいから
- ・福祉の活動が行いやすかったから
- ・主体的で、ボランティアとして集まりやすく、自由がきく



- ・完全にボランティアのグループだから
- ・愛好者の集い
- ・同好者の地域サークルです

#### (申請・手続きが大変)

- ・面倒な申請や手続き、活動の縛り等が無い為
- ・色々手続きが大変だから
- ・法人格取得後の対応が面倒と判断したため

#### (団体の属性)

- ・昭和 45 年新興住宅地として金剛団地がスタートし、自治会、老人会も発足し、その延長線上にあります
- ・富田林市レクリエーション協会に属するため
- ・所属団体が取得している
- ・カレッジ修了後、地域活動支援を一つの柱としている。また大阪府、富田林市、教育委員会、社会福祉協議会の後援の支援を受けている。

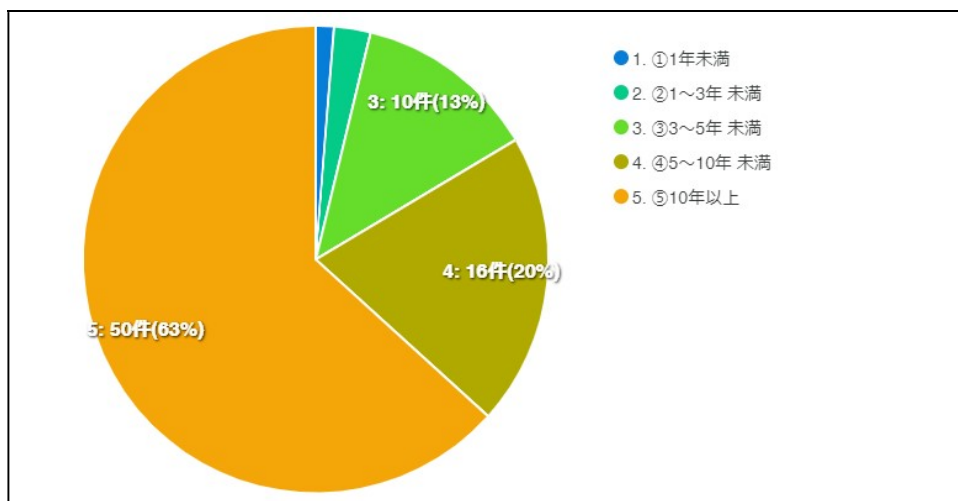
#### (その他)

- ・今のところ法人化する必要がないため
- ・今のところ、法人である必要性がない。
- ・発足して間もないため
- ・将来的に NPO 法人化する計画もあります

全体の 58%の団体が法人格のない任意団体として活動している。法人格を取得していない理由としては、法人格を持つほどの組織、運営体制、財力がない。構成人数が少ない。知識不足。申請・手続きが面倒などがあがっている。

一方、法人化した理由としては、社会的に信用が得られる。法人格を取ることで公益性、社会貢献のイメージがある。福祉の活動がしやすくなる。助成金が受けやすくなるといった理由があがっている。

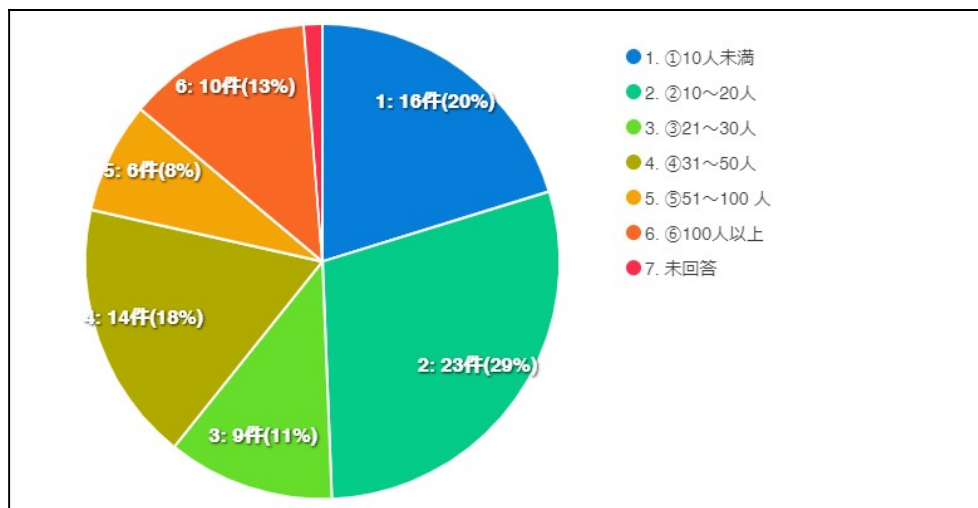
Q4. 団体の活動年数について教えてください



10 年以上活動している団体が 63%を占めている。

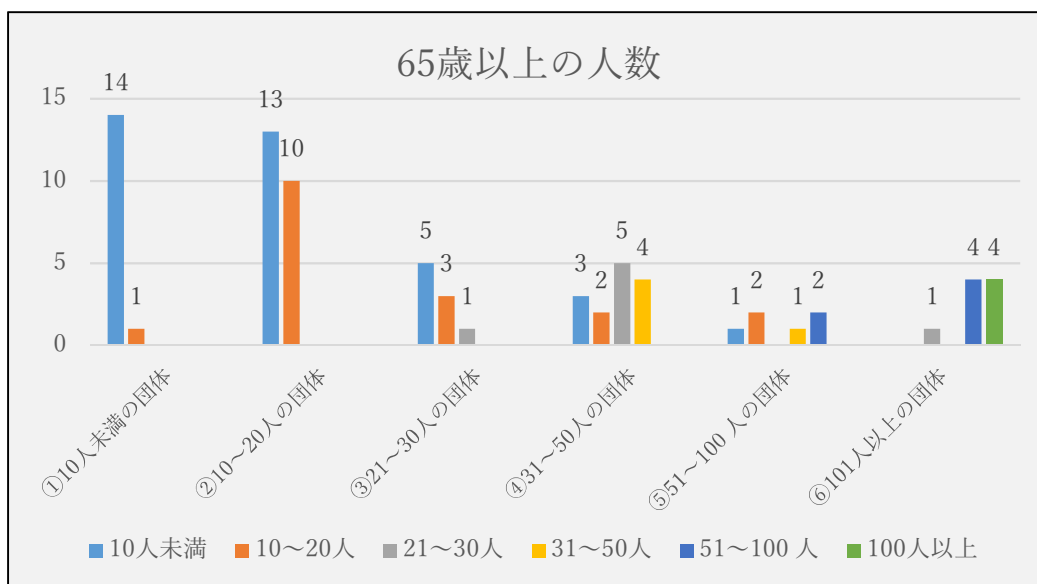
Q5. 団体の構成人数について教えてください。

※構成人数には理事や事務局スタッフ・ボランティア、会員（またはそれらと同じような役割を持っている人）を含みます。



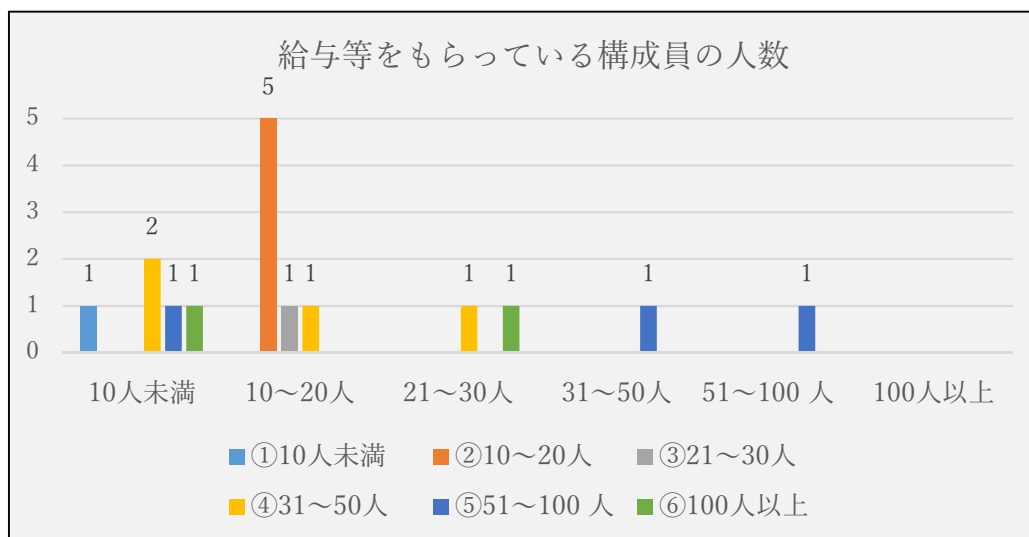
構成人数が 20 人以下の団体が半数にのぼっている。

Q6. そのうち 65 歳以上の方は何人ですか。（おおよその人数）



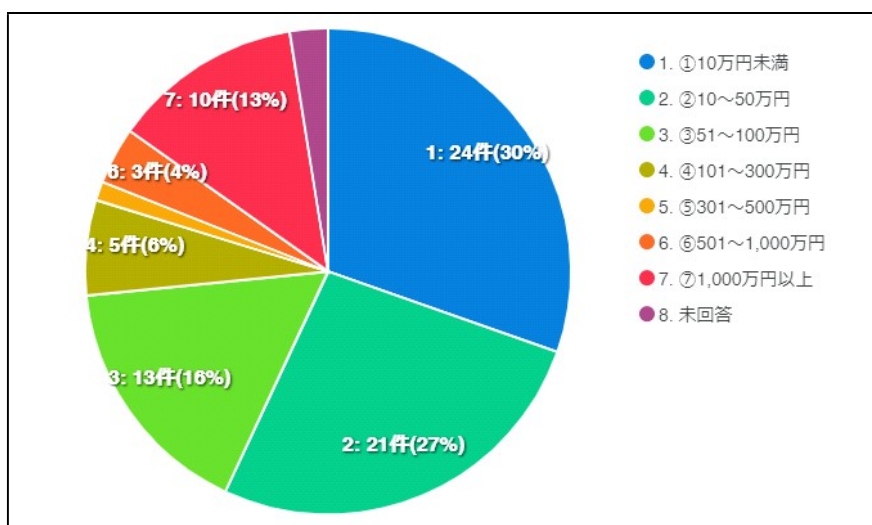
構成人数に占める 65 歳以上の人数の割合は団体によって異なる。

Q7. 団体の活動において、団体から給与、報酬、賃金等をもたらしている構成員は何人ですか。いない場合は 0 人とお書きください。



構成人数が 100 人以上の団体では無償で活動している人が多いと言える。

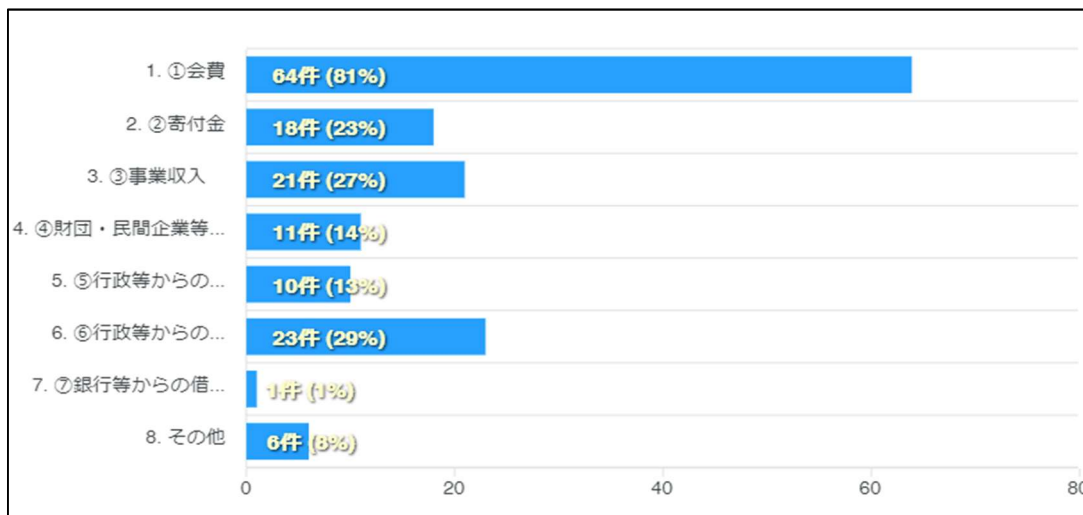
Q8. 団体の年間の予算規模について教えてください。



予算規模が「10 万円未満」が 30%と最も多く、次に「10～50 万円」が 27%となっている。

Q9. 団体の収入源について教えてください。（複数回答可）

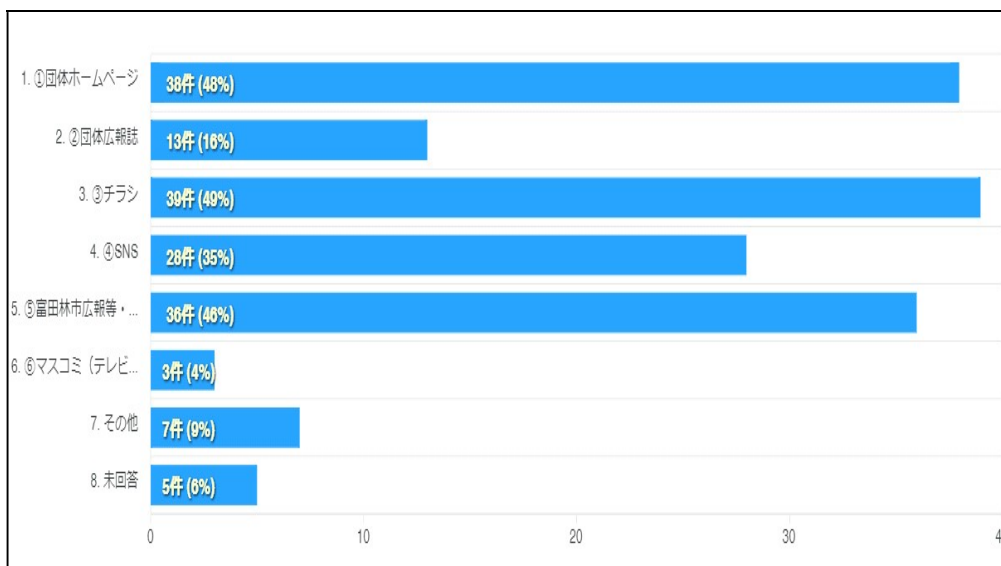
- ・ ① 会費    ② 寄付金    ③ 事業収入    ④ 財団・民間企業等からの助成等
- ・ ⑤ 行政等からの委託費    ⑥ 行政等からの補助金    ⑦ 銀行等からの借入れ    ⑧その他



主な収入源としては「会費」（81％）が最も多く、次に「行政等からの補助金」（29％）「事業収入」（27％）となっている。

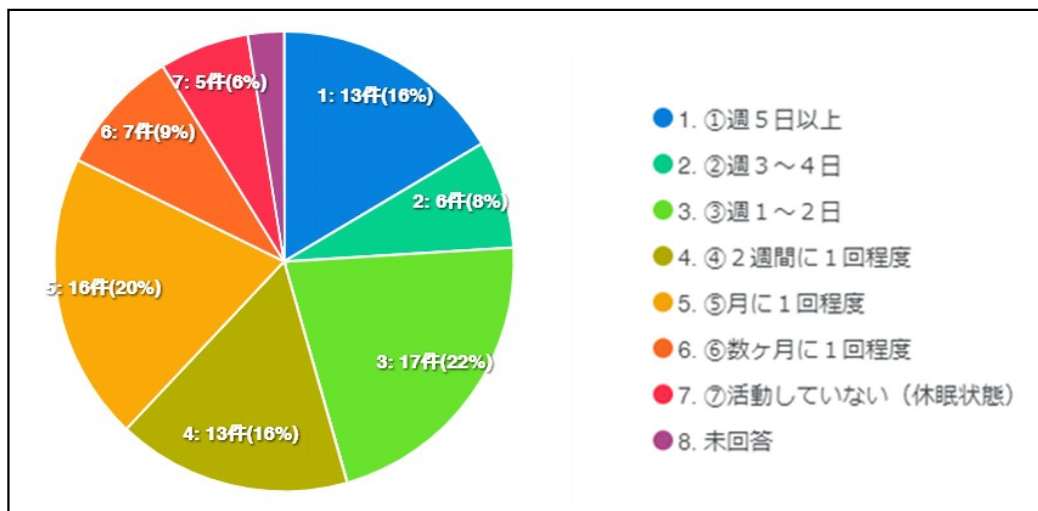
Q10. 団体が活用している広報媒体について教えてください。(複数回答可)

- ・ ① 団体ホームページ    ② 団体広報誌    ③ チラシ    ④ SNS
- ・ ⑤ 富田林市広報等・SNS・HP    ⑥ マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等）    ⑦ その他



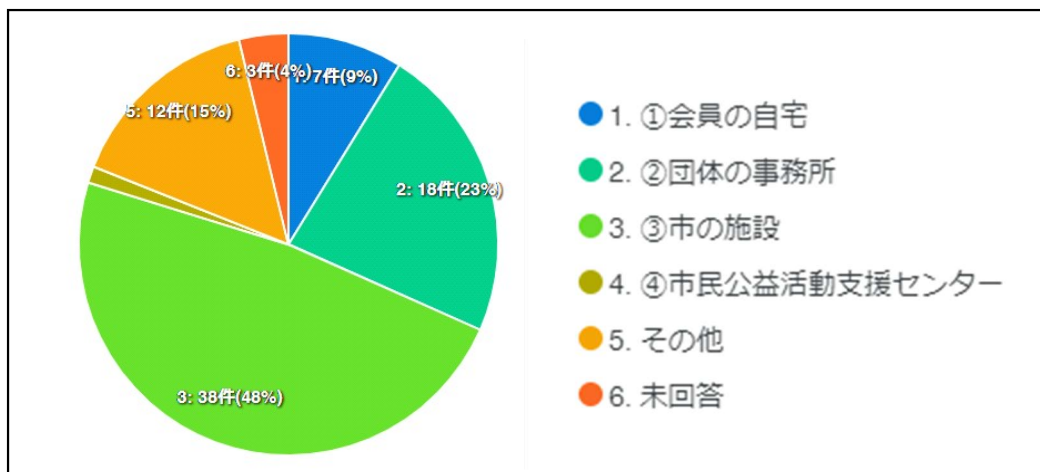
広報媒体は、団体が運営するホームページやチラシだけではなく、市の広報誌・SNS・ホームページも活用していることがうかがえる。

Q11. 活動頻度はどれくらいですか。



活動頻度については、特に大きな差はなく、「週1～2日」(22%)「月に1回程度」(20%)が多くなっている。

Q12. 打ち合わせや会合などで使用する主な施設を1つ教えてください。



会合などで使用している施設は、「市の施設」（48％）が約半数で、次に、「団体の事務所」（23％）となっている。

Q13. 活動の中でやりがいを感じる点を教えてください。

（感謝・笑顔・喜び）

- ・ イベントの参加者に喜んで頂いたとき
- ・ 2年に一度ではありますが、日頃の成果を発表して、多くの方に見て頂けることです。
- ・ カレッジのカリキュラムの企画をして会員のみんなから褒められたとき、やりがいを感じる。
- ・ まち歩きを通して、参加者のみなさんに喜んでいただくのが何よりです。そして、住みやすい楽しい町作りをめざしていきます。
- ・ 富田林百景のブログをかなりの方がご覧になっている。毎日 300～400 人。富田林公民館の街巡りや、富田林ライオンズクラブの街巡りを通じて、多くの方に街巡りを楽しんでもらっていること。
- ・ サポートが個人の課題解決に役立ち、喜んでくれること
- ・ ボランティアで演奏して喜んでいただけた時。
- ・ 人形劇を見た方からよかったと言われる時
- ・ 施設やイベントで歌(ゴスペル合唱)を披露することで、喜んでもらえたり元気がもらえと言ってもらえ、自分達も元気になり、はっぴいになれる。(エネルギー倍増計画と勝手に銘打っています)
- ・ 子ども対象や高齢者対象のサロンを開催して参加者が楽しんで、喜んで帰って行かれるのを見ると、やって良かったなと思う。準備の大変さを忘れてしまう。
- ・ 参加者が喜びを感じるとき
- ・ 利用された保護者の方から感謝の言葉をかけられたとき
- ・ 事業内容がココロと体の元気作り、仲間づくりだから、市民や会員達からのありがとう！たのしかったわ！の言葉にやりがいを感じる

- ・設立時より、活動に支持協力し、食品を定期的に提供してくれる方々の思いを、待ってくれる家族がいる。僅かな時間のふれあい・笑顔が活力になっています。
- ・道行く人のお礼や励ましの言葉。
- ・発表会や出前演奏で、お客様が楽しんでくれること。
- ・施設を訪問して私たちの活動を観て喜んでもらえること

### (子どもとの関り)

- ・子供達が素敵な歌声で歌ってくれる時。子供達にとって、楽しく、やりがいがあり、居心地の良い場所であると感じる時。子供達の生きる力を育てていると思える時。
- ・子どもの為になっていると感じた時。
- ・子供を中心に練習し、その成果を発表会やボランティア活動に参加できること。
- ・子供の笑顔
- ・子どもの声を電話やチャットで聴き、繋がり、一緒に考え、子どもの力を感じ、寄り添えること。
- ・子どもたち、ひとり一人の笑顔はもちろんのこと、自尊心の向上やコミュニケーション能力が上がっていると感じる時です。もう一つは虐待のヘルプサインが出やすくなり、「しつけ」と「虐待」についてご家族や関係者に話しをするタイミングが増えたので虐待を受ける子どもたちが少なくなっていると思います。子ども支援は親子の信頼関係の構築を中心に、どれだけ深く潜り込める支援を行うか？で勝負が決まります。ペアレント教育もしっかり取り組むと大きな「やりがい」を感じることが出来ます。会話の中で建前と本音の狭間も見えてきます。
- ・子ども達への教育を通して成長を目の当たりにできる所
- ・子どもの成長、人との繋がり
- ・未来を担う子ども達にスポーツを通じて友情や感謝の心を感じて成長してくれる事など。
- ・障がい児の子供達のサポートをしているのですが、子供たちが、笑顔で過ごし、成長している姿をみることができた時。

### (仲間づくり・親睦・交流)

- ・農業の振興、農作物の栽培、JA あすかてくるでへ出荷、会員の連帯
- ・志を同じくする友人と心を通わせて、ひとつのことをするボランティア活動
- ・会員同士の連帯感スキルアップ
- ・会員が生き生きとして楽しく学び、仲間づくりをしており、それを見るところらまで元気と勇気をもたらしている。
- ・活動することによる健康維持と仲間同士の会話で情報量の増えること仲間が楽しく喜んでもらった時の喜び
- ・価値観や問題意識を共有できる仲間との交流や、活動に参加してくれた方々が喜んでくれること
- ・会員が練習日を楽しみに集まりたのしい時間を過ごせる時です。
- ・自治会と協同による当マンションの住民を対象とする月一回の親睦お茶会、週 3 回のグランドゴルフ会、健康マージャンサークル、カラオケ愛好会、新年会、敬老会、マンション周りのゴミ拾い等の社会奉仕事業等

- ・健康で、毎週皆んなと話しが出来る事
- ・皆が活動日を楽しみにして、楽しそうに踊っている時。
- ・レクリエーション活動

#### (男性の居場所づくり)

- ・男性高齢者の居場所作り富田林の歴史文化の共有
- ・男の居場所作り地元の歴史を PR する
- ・男の居場所づくり

#### (新たな知見)

- ・自己の成長及びメタ認知を獲得
- ・常に新しいものにふれること
- ・富田林を中心にして南河内全体や、場合によっては日本史の学習を深めることができ、富田林や南河内の歴史的・地理的特質を認識することができる
- ・認知症に対する偏見や誤解、当事者や介護家族の声などから、認知症ケアについて、新たな視点で考えさせられること。

#### (活動への理解・共感)

- ・自然農法活動が求められる時代になってきた。次世代の子供たちに伝えられ喜ばれている。地域の方々との理解や協力が得られるようになってきている。他市から自然農法を求めて移住者が出た。大阪市内からの農業体験訪問者がふえてきた。自然農法を求める人々が増えてきた。自然に触れることにより多くの気づき、学びが魂に伝えられる。
- ・活動に共感を感じてもらったとき活動を通じて地域が変わったとき
- ・地域のみなさんと運動を続ける事の大切さを理解してもらうこと・困った事などがあれば、市役所の高齢介護課に相談して下さいと伝えること
- ・活動を理解・支援してくれる人が少しずつでも増えること

#### (連携・繋がり)

- ・会議等で他町会との情報交換ができる
- ・私自身が、前回大会の 2019 年度 10m 男子の部の大阪府代表で全国大会(10m,8m の男女各部門で開催)に出場したのに(当時は藤井寺市内の支部に所属していました)、近隣 5 市町村には支部がなかったこととも、この地域からの、他支部への参加者が少ないので、2020 年に富田林で参加人数を増やし、近隣市町村にも参加者が増えることを目指して、支部を設立条件の近隣市町村の方たちとともに最低人数 5 人で作り、活動している事。
- ・会場で沢山のお客さんや出店者さんが大変喜ばれていること、会場や地域のお店や人が繋がり、新しく何かを始めるきっかけになったりすること、地域の繋がりが出来る事。
- ・地域の皆さんや、お客さまに喜んでいただいたり、開催場所の活性化や人と人がイベントに来て繋がりが出来る事。



#### (支援・サポート活動)

- ・介護事業に携わる中で、制度でできる事と出来ないことがあるので、NPO として狭間にあるサービスを提案し、利用者と利用者の家族に寄り添ったサービスをしながら自分らしく生きていくことをお手伝いできること。NPO の活動をよく知らずに会員になったスタッフも、いつの間にか、困った時はお互い様の精神が身についていくこと。
- ・問題を抱えている方がこちらのサポートなどでご自分で解決できたり、いい方向に進んでくれた時。また、活動をしていて、活動の輪が広がった時。
- ・自然療法を広く周知して、体調や精神的な不具合がなくなるように手伝いたい。ひいては医療費削減になると信じてます
- ・悩み苦しんでいらっしゃる人の手助け
- ・障がいのある方の就労支援や生活相談等を通して次のステップに進むことが出来たとき
- ・生活困窮の若者、虐待を受けてきた若者、自ら命を絶とうとしている若者など様々な困難のある若者が、私たちの活動を通じて、自分の好きなことを見つけ仕事にし、楽しそうに過ごしている姿を見たときにやりがいを感じます。

#### (地域貢献・社会貢献)

- ・地域の皆様のお役に立てること
- ・地域の為に活動しながら、世界の為にも活動できる
- ・地域の活性化、地域住人との交流、近隣商業者同士共存共栄に役立っていること。自分たちの街は自分達で変えていくところです。
- ・富田林 SDG s パートナーとして、ココロのケア、居場所づくりを通じて、SDGs の理念である『誰一人取り残さない』を官民協働で成し遂げる途上に居させてもらっていること。この地に、傾聴（一人一人に寄り添う）文化を浸透させたい。

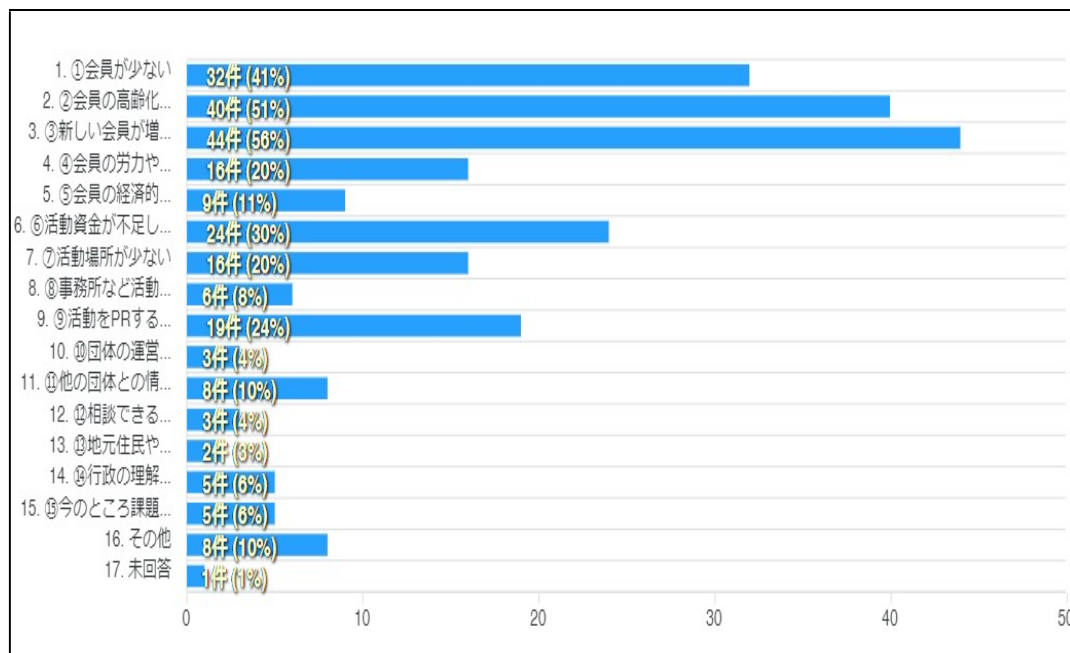
#### (目的達成)

- ・捕獲した猫の新しい里親さんが見つかった時。
- ・要求が実現すること

多くの団体では、イベントの参加者や相手、特に子どもに喜んでもらえたり、感謝してもらえたり、楽しんでもらえたりしたときにやりがいを感じている。また、会員同士による仲間づくりや親睦、交流ができること。さらに、生活困窮など課題を抱えている人の課題が解決して自立に至ったり、社会貢献に繋がっているなど自分たちの活動が人や地域に役立っていることにやりがいを感じていることがうかがえる。

Q14. 活動の中で感じている問題点や課題はなんですか。(複数回答可)

- ・ ① 会員が少ない      ② 会員の高齢化が進んでいる      ③ 新しい会員が増えない
- ・ ④ 会員の労力や事務的負担が大きい      ⑤ 会員の経済的負担が大きい
- ⑥ 活動資金が不足している      ⑦ 活動場所が少ない
- ⑧ 事務所など活動拠点が確保できない      ⑨活動を PR する手段が少ない
- ・ ⑩ 団体の運営に必要な知識が不足      ⑪ 他の団体との情報交換の機会がない
- ・ ⑫ 相談できる相手がいない      ⑬ 地元住民や他団体の理解が得られない
- ・ ⑭ 行政の理解・協力が得られない      ⑮ 今のところ課題や悩みはない      ⑯ その他

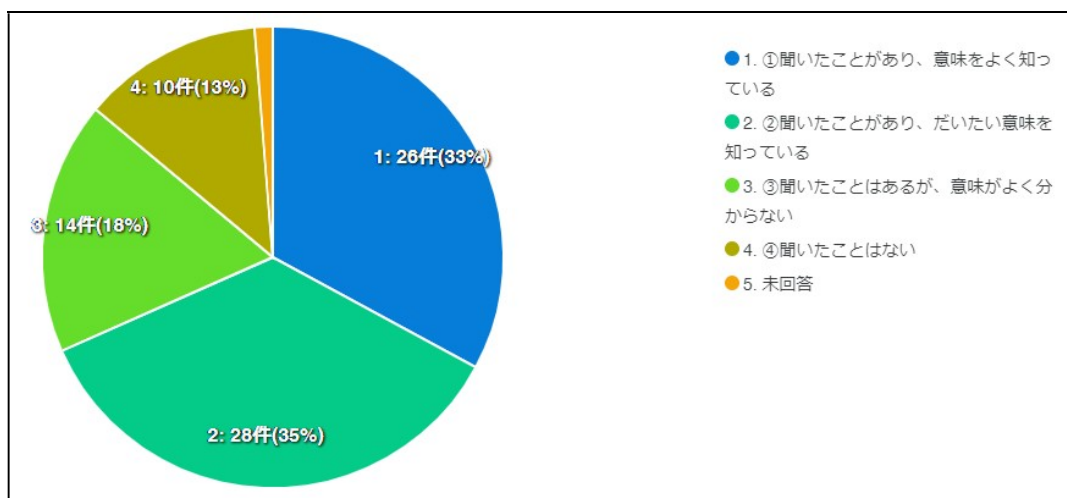


活動における課題として、「新しい会員が増えない」(56%)「会員の高齢化が進んでいる」(51%)「会員が少ない」(41%)がとりわけ高く、新たな活動の担い手不足が大きな課題となっていることが見受けられる。

Q15. 「協働」という言葉を聞いたことがありますか。

～「協働」とは～

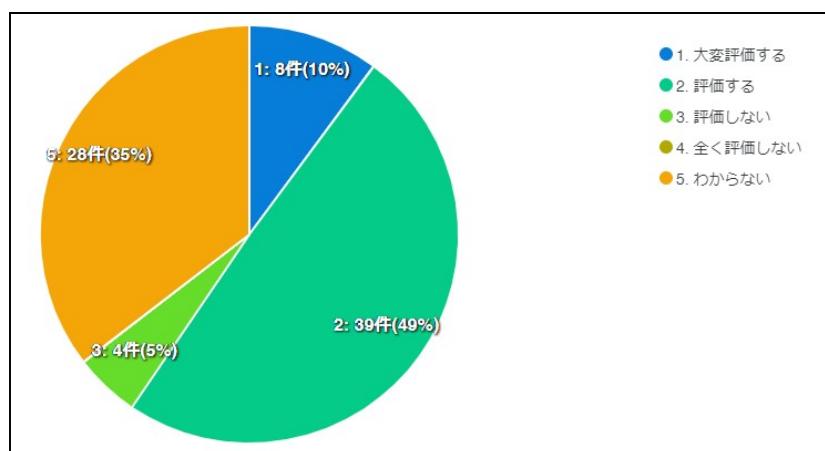
市民及び市がそれぞれ自らの果たすべき役割を自覚して、対等な立場で協力し合い、補完し合うこと



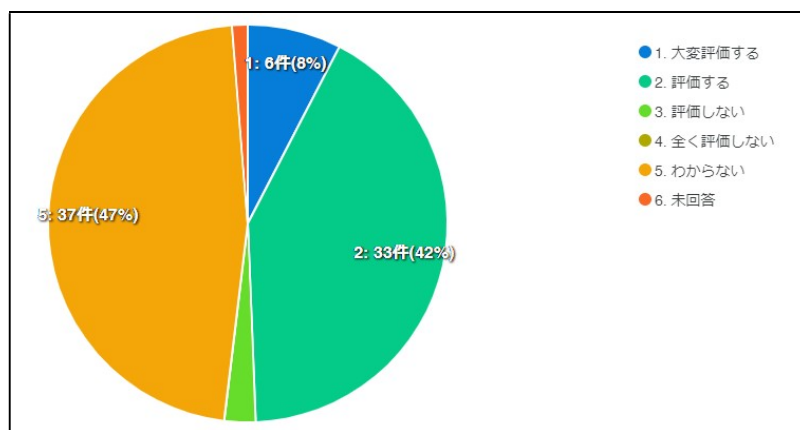
「協働」という言葉について、「聞いたことがあります、だいたい意味を知っている」(35%)「意味をよく知っている」(33%)をあわせると 68%の団体が「協働」の意味を理解しているが、一方、「聞いたことはあるが、意味がよく分からない」(18%)「聞いたことがない」(13%)をあわせると 31%の団体が理解していない状況が見られる。

Q16. 富田林市の市民公益活動を推進する施策に対する評価を教えてください。

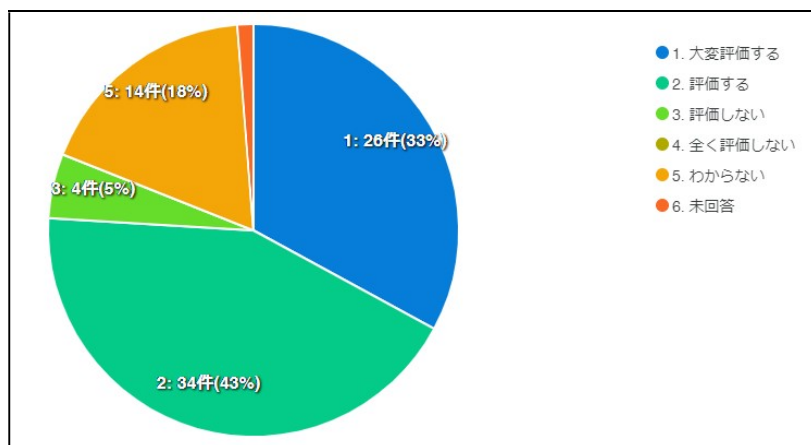
★「富田林市市民公益活動推進指針」



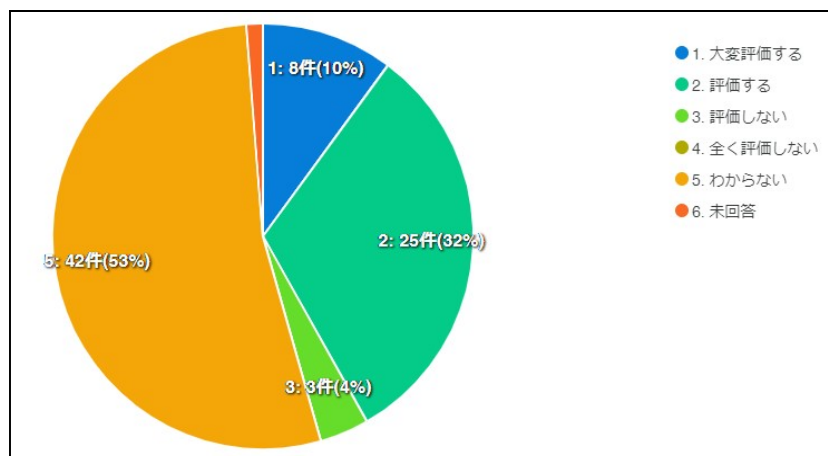
★「市民公益活動推進と協働のための市民会議」



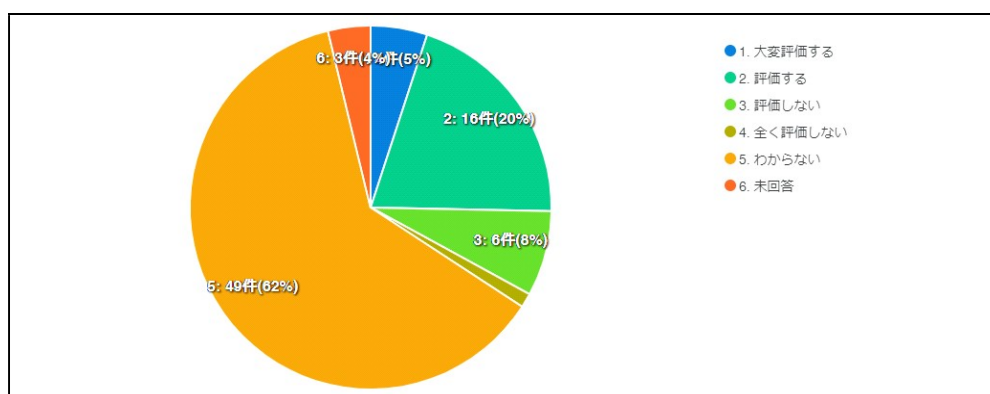
★「市民公益活動支援センター」



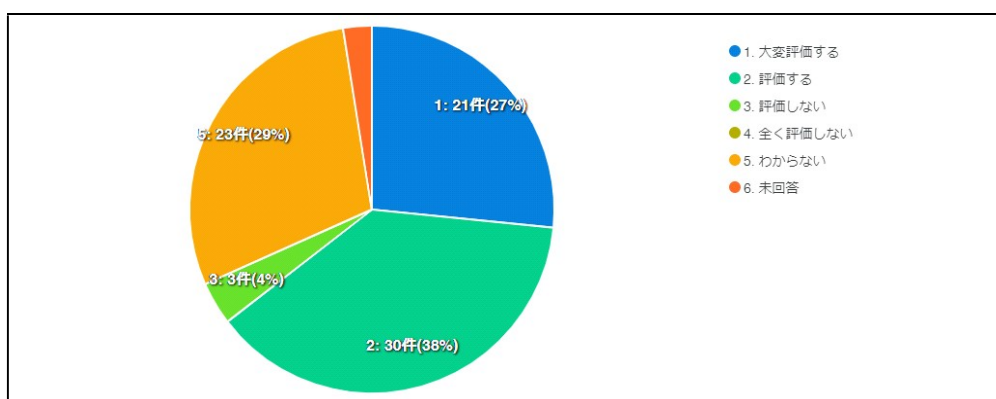
★元気なまちづくりモデル事業補助金



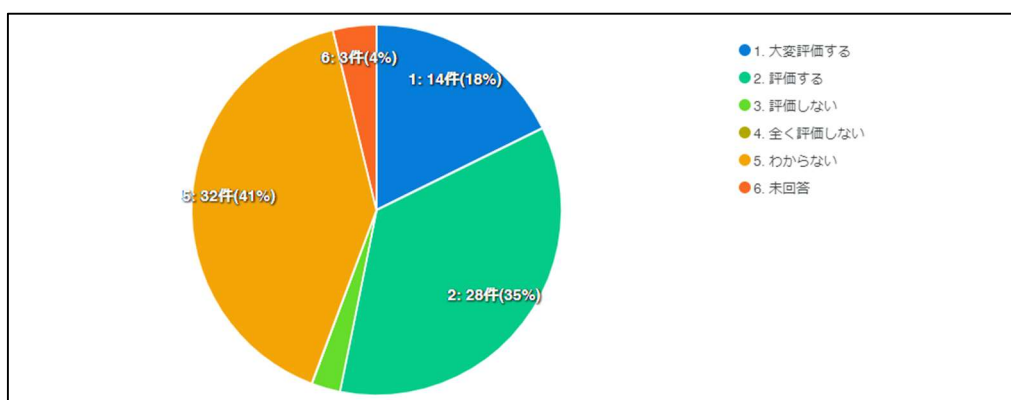
★「地域活性化アドバイザー派遣事業」



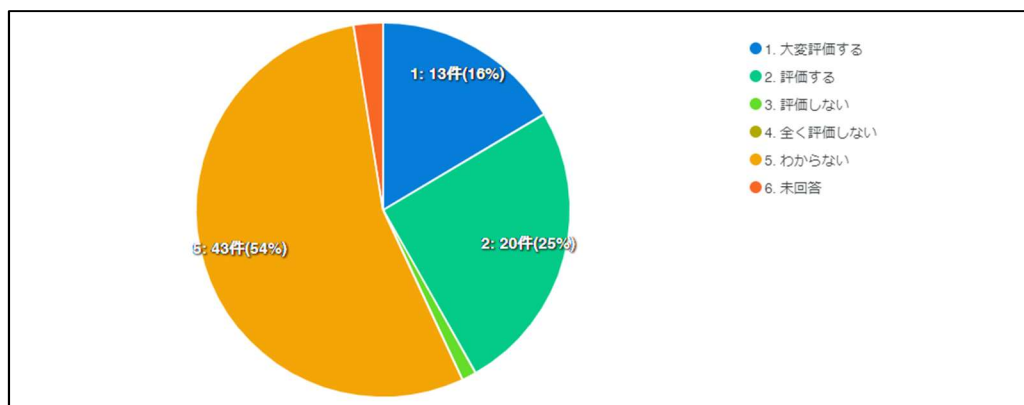
★「市民活動わくわく広場 in とんだばやし」



★「住民活動災害補償保険」

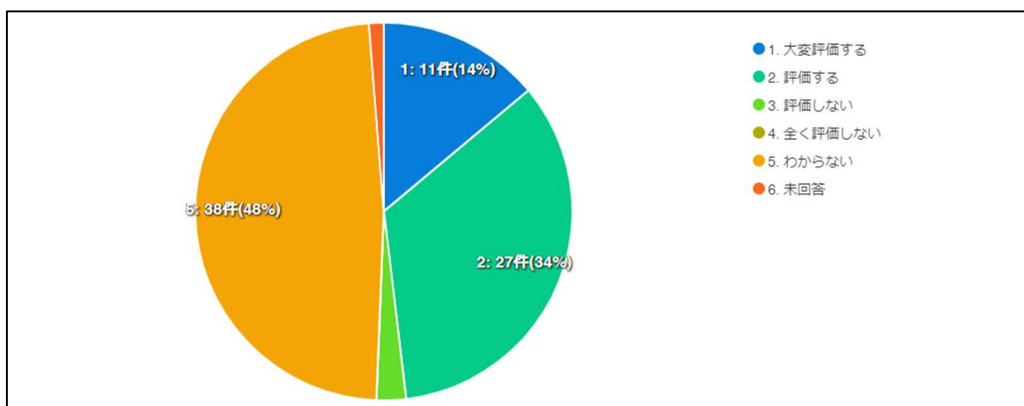


## ★「Mira-Ton」



## ★「富田林市SDGsパートナーシップ制度」

※富田林市SDGsパートナーシップ制度とは、令和3年1月から、地域でSDGsに取り組まれている多様な方々を市独自で登録させていただく制度です。

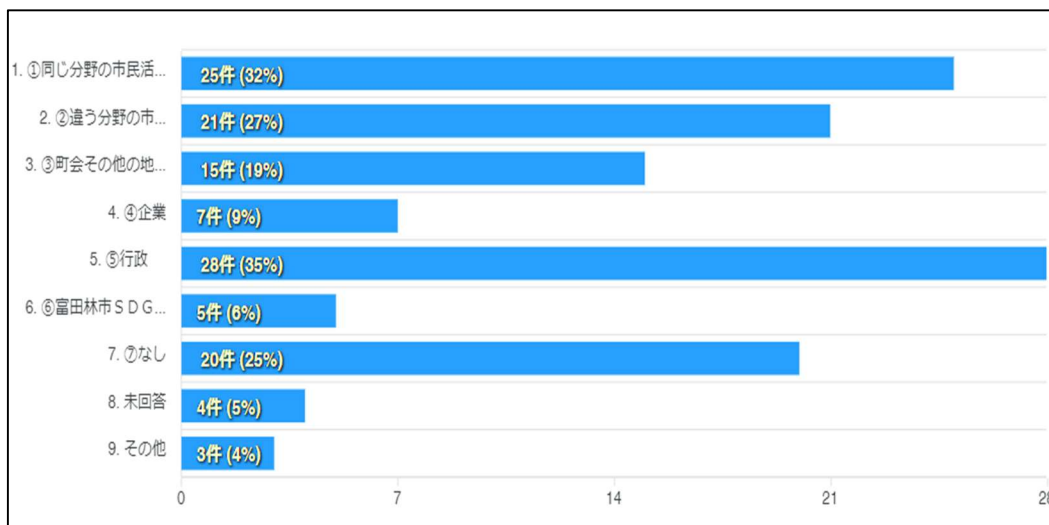


市民公益活動を推進する施策の評価として、「大変評価する」「評価する」を合わせたものでは、「市民活動公益支援センター」が76%と最も高く、これに関連する取組みとして「市民公益活動わくわく広場 in とんだばやし」も65%と高い評価となっている。

一方、「元気なまちづくりモデル事業補助金」(42%) やそれに関連する「地域活性化アドバイザー派遣事業」(25%) に関しては評価が低く、また「分からない」がそれぞれ53%と62%となっている。

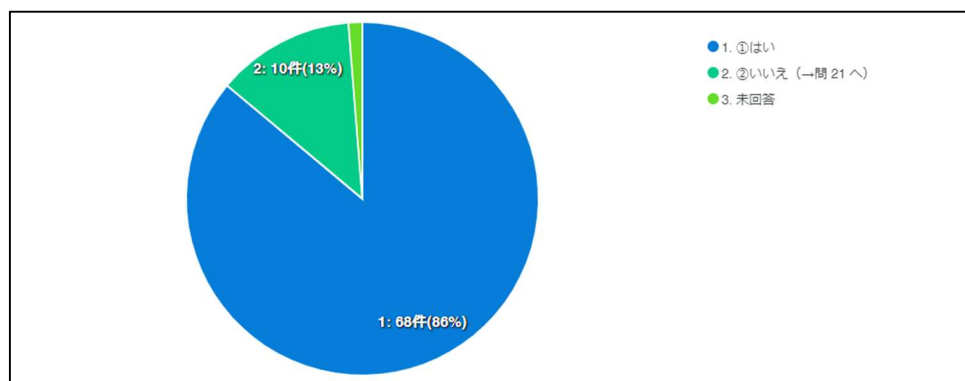
Q17. 協働している（またはしたことがある）相手先を教えてください。（複数回答可）

- ① 同じ分野の市民活動団体    ② 違う分野の市民活動団体    ③ 町会その他の地域団体  
④ 企業    ⑤ 行政    ⑥ 富田林市SDGsパートナー    ⑦ なし    ⑧ その他



実際に協働をしている、またはしたことがある相手先として、「行政」（35%）がもっとも多く、次いで「同じ分野の市民公益活動団体」（32%）「違う分野の市民公益活動団体」（27%）の順になっている。

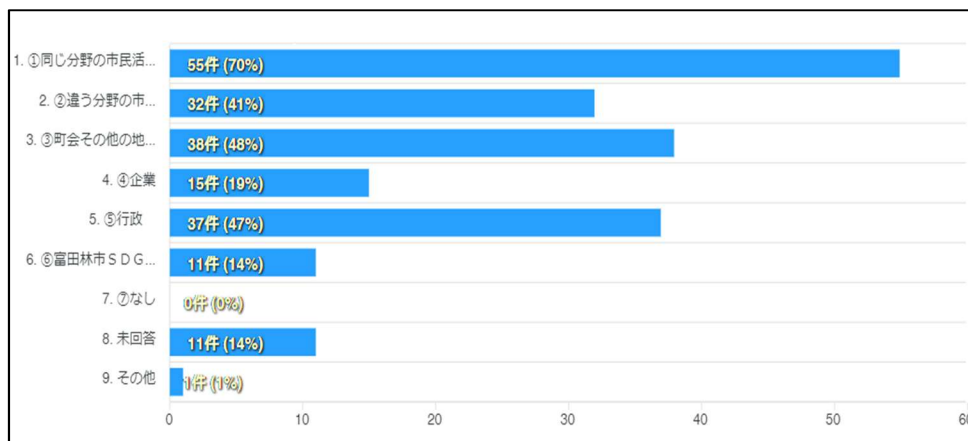
Q18. 団体の活動をするうえで、他団体との協働が必要だと感じることはありますか。



他の団体との「協働」については86%が必要であると回答している。

Q19. 問18で「はい」と回答した方にお伺いします。必要だと感じる相手先を教えてください。(複数回答可)

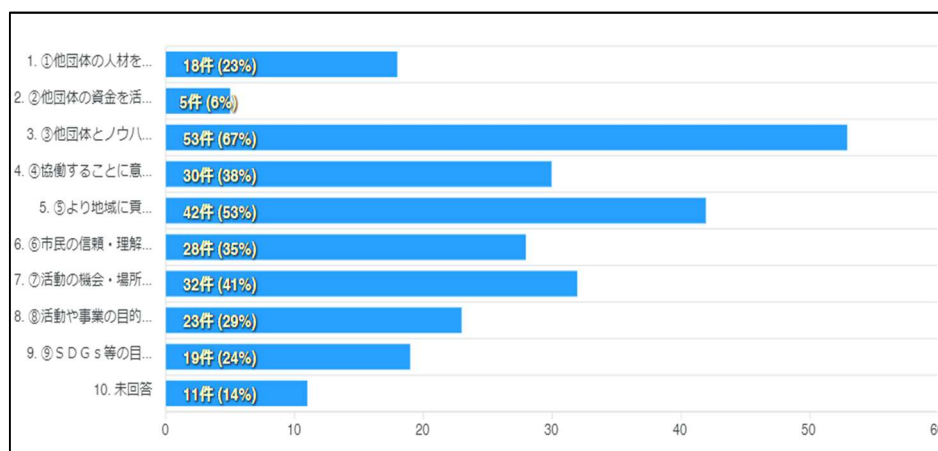
- ・ ① 同じ分野の市民活動団体    ② 違う分野の市民活動団体    ③ 町会その他の地域団体
- ・ ④ 企業    ⑤ 行政    ⑥ 富田林市SDGsパートナー    ⑦ なし    ⑧ その他



協働の相手先として必要だと考えているのは、「同じ分野の市民公益活動団体」(70%)がもっとも多く、次いで「町会その他の地域団体」(48%)「行政」(47%)の順になっており、行政よりも同じ分野で活動する団体との協働を望んでいることが見受けられる。

Q20. 問18で「はい」と回答した方にお伺いします。他団体等と協働したい理由を教えてください。(複数回答可)

- ① 他団体の人材を活用できるため    ② 他団体の資金を活用できるため
- ・ ③ 他団体とノウハウ・情報を共有できるため    ④ 協働することに意義があるため
- ・ ⑤ より地域に貢献することができるため    ⑥ 市民の信頼・理解を得やすくなるため
- ・ ⑦ 活動の機会・場所が確保できるため    ⑧ 活動や事業の目的が同じだから
- ・ ⑨ SDGs等の目標を達成するためには協働・連携が必要だから    ⑩ その他



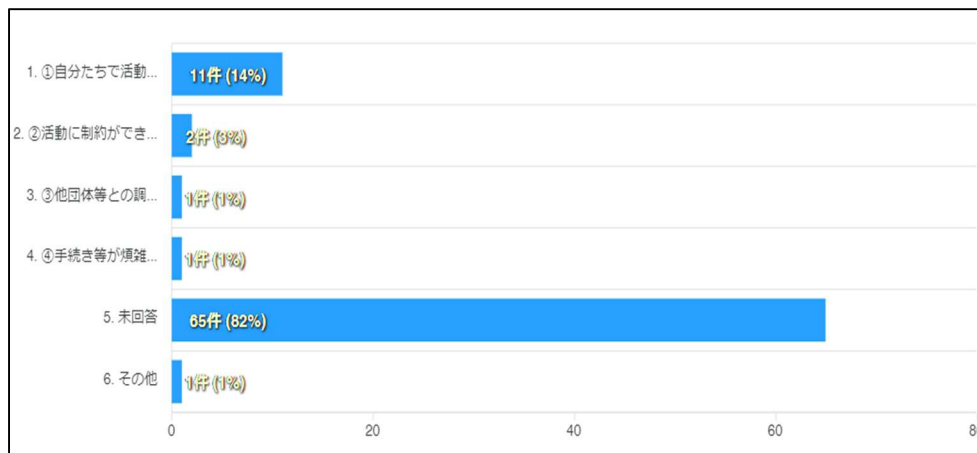
他団体と「協働」したい理由として、「他団体とノウハウ・情報を共有できるため」(67%)「より地域に貢献することができるため」(53%)が多く、協働による実務的なメリットや、地域に対するより高い貢献度を求めていることがうかがえる。



Q21. 問 18 で「いいえ」と回答した方にお伺いします。他団体等と協働しない理由を教えてください。

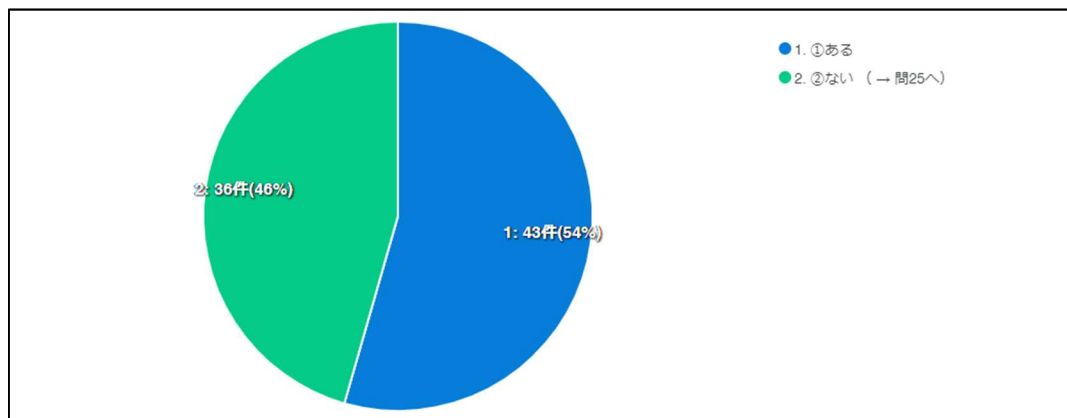
(複数回答可)

- ・ ① 自分たちで活動が完結しているため      ② 活動に制約ができてしまうため
- ・ ③ 他団体等との調整が困難なため      ④ 手続き等が煩雑なため      ⑤ その他



一方、他団体と「協働」しない理由として、「自分たちで活動が完結しているため」(14%)と考える団体が多く見られた。

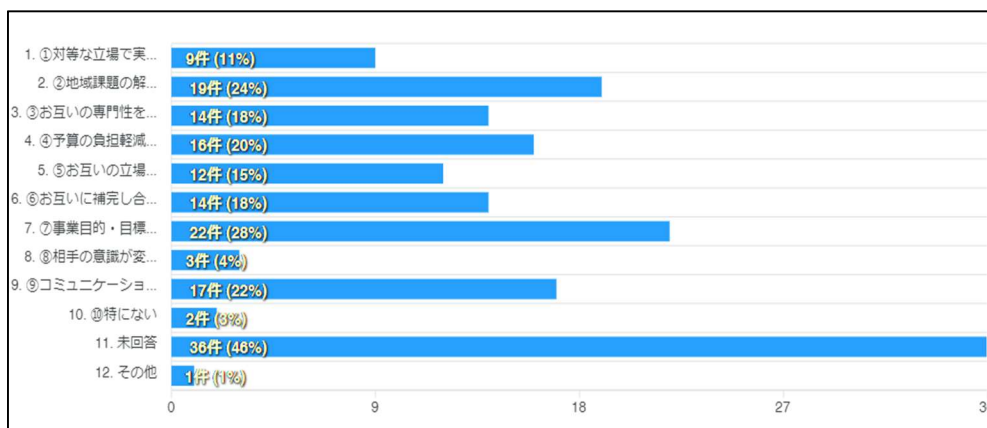
Q22. これまで行政と協働による事業の経験はありますか。



これまで行政と協働したことが「ある」と回答した団体は 54%と半数以上に上っている。

Q23. 行政と協働で事業を実施したことで、良かったと感じる点はなんですか。（複数回答可）

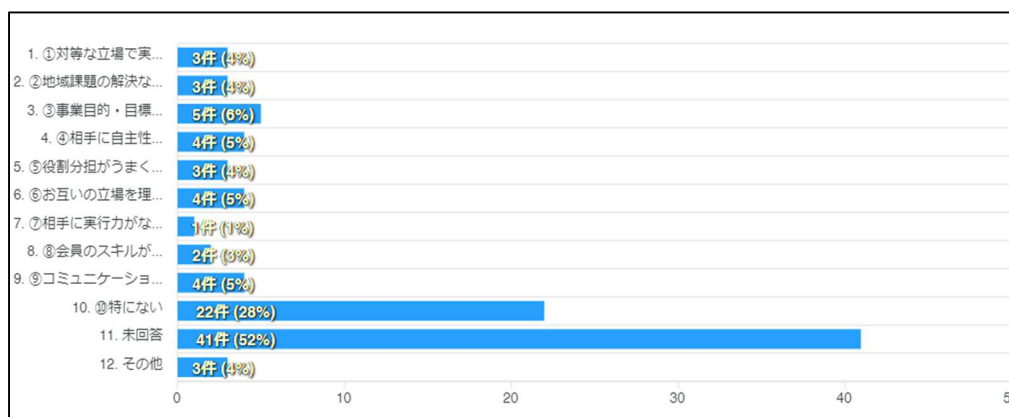
- ・ ① 対等な立場で実施することができた      ② 地域課題の解決など成果を上げることができた
- ・ ③ お互いの専門性を活かすことができた      ④ 予算の負担軽減につながった
- ・ ⑤ お互いの立場など相互理解を図ることができた
- ⑥ お互いに補完し合い、役割分担を図ることができた      ⑦ 事業目的・目標を共有できた
- ⑧ 相手の意識が変わった      ⑨ コミュニケーション（情報共有や対話等が十分に取れた）
- ⑩ 特にない      ⑪ その他



行政と協働して良かった点として、「事業目的・目標を共有できた」（28%）「地域課題の解決など成果を上げることができた」（24%）「コミュニケーション（情報共有や対話等が十分に取れた）」（22%）の順になっており、問題意識の共有や事業の成果が評価されていることがうかがえる。

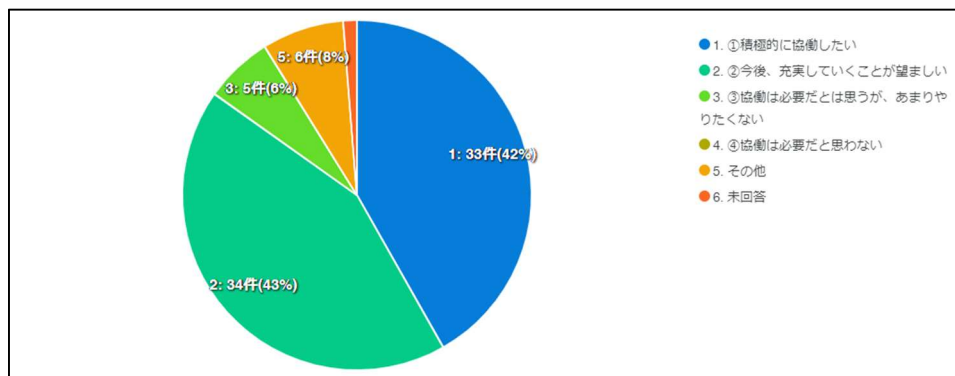
Q24. 行政と協働で事業を実施したことで、問題に感じる点はなんですか。（複数回答可）

- ・ ① 対等な立場で実施することができなかった
- ② 地域課題の解決などの成果が上がらなかった ③ 事業目的・目標が共有できなかった
- ④ 相手に自主性・自発性がなかった
- ⑤ 役割分担がうまくいかず、補完し合うことができなかった
- ・ ⑥ お互いの立場を理解することができなかった ⑦ 相手に実行力がなかった
- ・ ⑧ 会員のスキルが足りなかった
- ⑨ コミュニケーション（情報共有や対話等が十分に取れなかった） ⑩ 特にない
- ⑪ その他



一方、行政と協働して問題に感じたこととしては、「特にない」（28%）がもっとも多くなっている。

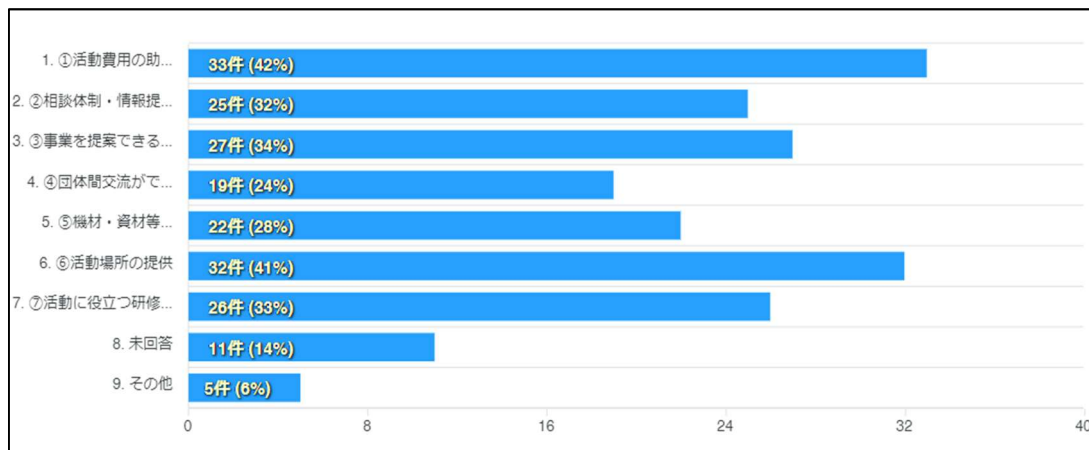
Q25. 行政との協働に対する今後の意向について教えてください。



行政との協働に関する今後の意向については、「積極的に協働したい」（42%）「充実していくことが望ましい」（43%）をあわせると 85%が望んでいることがうかがえる。

Q26. 問 25 で「④以外」を選んだ方にお聞きします。協働を進めるうえで、行政に求めることはなんですか。（複数回答可）

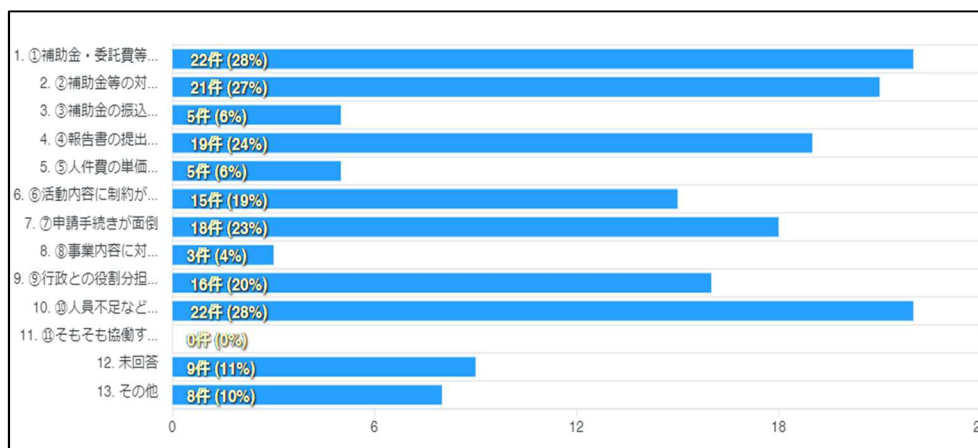
- ・ ① 活動費用の助成      ② 相談体制・情報提供体制の充実      ③ 事業を提案できる仕組みの充実
- ・ ④ 団体間交流ができる場や機会の提供      ⑤ 機材・資材等の提供      ⑥ 活動場所の提供
- ・ ⑦ 活動に役立つ研修や講座の開催      ⑧ その他



協働において行政に求めることとしては、「活動費用の助成」（42%）「活動場所の提供」（41%）「事業を提案できる仕組みの充実」（34%）の順に高くなっており、活動への財政的な支援と活動場所の提供が期待されている。

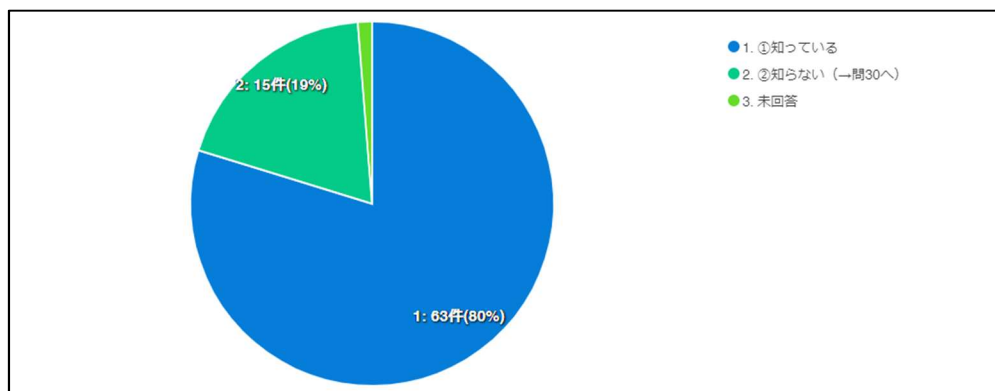
Q27. 行政と協働するうえで、課題だと思うことはなんですか。（複数回答可）

- ・ ① 補助金・委託費等の額が少ない      ② 補助金等の対象経費が限られており、使い勝手が悪い
- ・ ③ 補助金の振込までに時間がかかる      ④ 報告書の提出が手間である
- ・ ⑤ 人件費の単価が安い      ⑥ 活動内容に制約がある      ⑦ 申請手続きが面倒
- ・ ⑧ 事業内容に対する行政からの要求が高い      ⑨ 行政との役割分担が分からない
- ・ ⑩ 人員不足など、団体内の事情により余裕がない      ⑪ そもそも協働する必要性を感じない
- ・ ⑫ その他



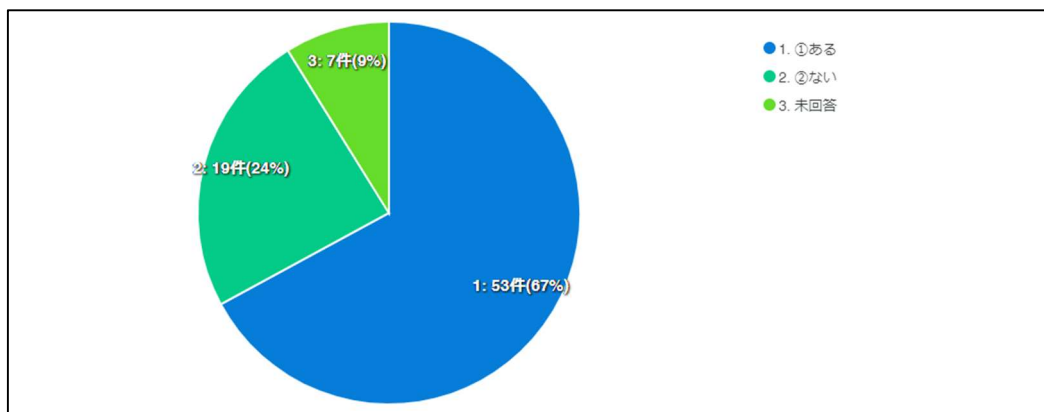
一方、行政と協働するにあたって課題に思っていることは、「補助金・委託費等の額が少ない」（28%）「人員不足など、団体内の事情により余裕がない」（28%）「補助金等の対象経費が限られており、使い勝手が悪い」（27%）となっており、財政的な面や使い勝手での不十分さを感じていることがうかがえる。

Q28. 地域団体、市民活動団体を支援するために支援センターがありますが、ご存知ですか。



市民公益活動支援センターの認知度は80%と高くなっている。

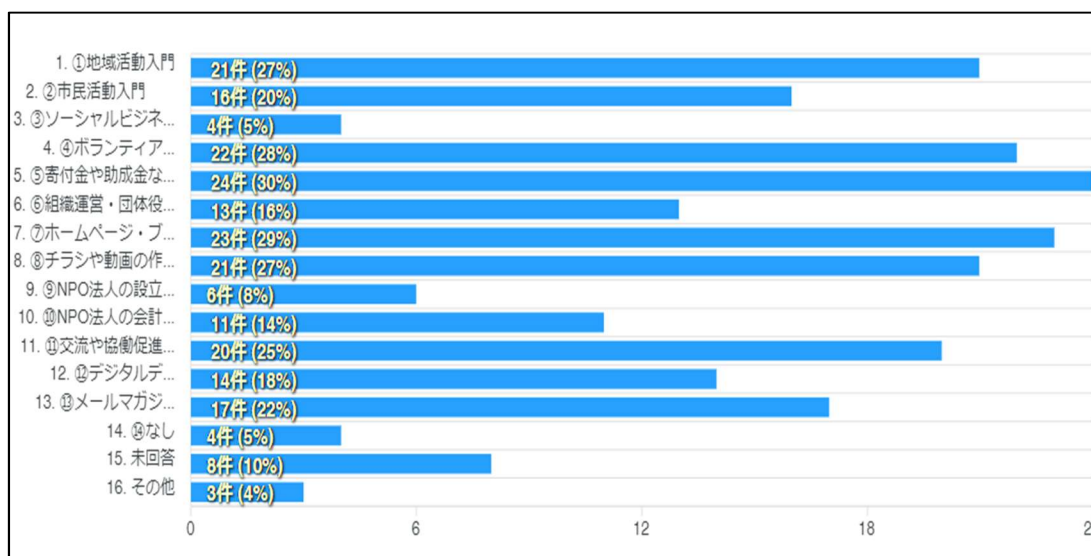
Q29. 支援センターを利用したことがありますか。



市民公益活動支援センターの利用については「ある」が 67%と高く、「ない」という団体は 24%となっている。

Q30. 支援センターで今後取り組んでほしい内容、または充実してほしい内容（講座開催等）を教えてください。（複数回答可）

- ・ ① 地域活動入門    ② 市民活動入門    ③ ソーシャルビジネス入門
- ・ ④ ボランティアの募集・育成    ⑤ 寄付金や助成金などの資金調達の方法
- ・ ⑥ 組織運営・団体役員向けの研修    ⑦ ホームページ・ブログ作成支援
- ・ ⑧ チラシや動画の作成支援    ⑨ NPO 法人の設立・支援
- ・ ⑩ NPO 法人の会計・税務・労務    ⑪ 交流や協働促進の機会
- ・ ⑫ デジタルデバイドの解消につながる取り組み（スマホ講座など）
- ・ ⑬ メールマガジン等による情報提供    ⑭ なし    ⑮ その他



市民公益活動支援センターの講座としては、「寄付金や助成金などの資金調達の方法」（30%）「ホームページ・ブログ作成支援」（29%）「ボランティアの募集・育成」（28%）となっており、財政基盤や人材の確保、活動の PR 方法に対するニーズが高い。

★市民活動、市民協働等について自由にご意見等をお書きください

○市民公益活動支援センター関連

- ・いつも市民公益活動支援センターには、柔軟に対応していただけて助けていただいています。ありがたいです。アンケートに、二日ぐらいかかりました。が、改めて自分たちが歩いている道を見つめる機会になりました。ありがとうございます。
- ・支援センターが「まちづくり」や市民活動の援助について、様々努力しておられることは、承知している。
- ・支援センターの皆さんにはお世話になっています。しかしコロナでなかなか積極的にイベント開催ができないため、只今休眠状態です。早く安心して活動できるのを心待ちしています。ありがとうございました。
- ・いつも大変お世話になっております。〇〇さんはいつもそのときの気流を読み、いま市民活動、市民協働としてできることを打ち出して頂いていると感じています。いつもありがとうございます。

(講座)

- ・ほとんどがデジタル系の講座ばかりで難しそう、もっと気軽に参加できる講座をたくさんやってほしい。とはいうものの、仕事をしている身としては参加しにくい時間帯ばかりで残念です。
- ・近年いろんな分野の講座や研修を提供してくれているので活動の潤滑剤になっているが、時間や開催日などが活動日やプライベートと重なって動けないことも多く、参加できない講座も多い。夜の講座や土日の講座だけでなく、平日の講座も増やしてくれるとありがたいです。

○団体の今後の活動

- ・具体的な地域課題や、市民活動団体が抱える課題が見える化し、広く地域住民に参画を呼びかけることで、地域に眠っている人材の掘り起こしが進めば良いと思います
- ・コロナでなかなかイベント開催ができませんが、来年は安心して開催できるように、会場のガイドラインを整え開催場所と協議し準備していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。
- ・市民に地域猫活動をもっと知ってもらいたいのです。広めるためのアドバイス等を受けたいです。

○行政へご意見

- ・市民協働は必要とを感じるが、もう少し行政より働きかけが欲しい
- ・今や市政も市民団体との協働なしでは進められない状況があり、スローガンとしては協働がうたわれているが、協働の意味やメリットについて理解したうえで協働を進めている職員は少ない。また、市民団体側もさらにスキルアップして事業の質を高め、行政と対等な関係を築き、市民活動を盛り上げたいがまだそこまで行っていない。官民とももう一度原点に返って、協働の意味と価値を確認する必要があるのではないかと思う。
- ・今後ますます市民活動が重要になってきます。行政との協働を進めていただければと思います。
- ・最近行政の方で、市民活動、市民協働にさらに目を向けていただきまして感謝しております。やはり行政と市民が協働して「きらめくええとこ富田林」を目標に、住みやすい楽しい街づくりをめざしていく必要があると思います。
- ・市役所の一層の指導を期待したい。尚コロナ禍高齢化で今年一旦解散

- ・市民活動に対して、できるだけ行政が協力してほしい。また窓口をわかりやすく一本化してほしい。
- ・老人会活動に対し、当方の依頼に対し、講師の紹介：派遣を積極化すること人口減少、高齢化社会、少子化等を考慮すればもう少し高齢者に対する施策があってしかるべきと考えます。何かとお世話になり、感謝しております。
- ・大阪狭山市は促進補助事業があり、講演会の資金にあてたり活動が広げられるのがいいなと思いました。何かそのような資金の補助はできないのでしょうか。
- ・富田林市が文化芸術活動の推進や市民の様々な自主的活動に協働をすすめてゆく事は大変有意義で必要だと思っている。
- ・地域課題を解決するための市民協働事業のアイデアをプレゼンする場がほしいです。いつもありがとうございます。